

教育目標

和

「我が故郷を愛し、『徳・知・体』の調和のとれた、
豊かな人間性と実践力を備えた『海東っ子』の育成」

文責 宇城市立海東小学校 今村誠之



河原の岩石、露頭の地層、動植物の化石、etc.自然には数千万年前、数億年前の当時の環境を想像できる痕跡が残されています。これまでの研究の結果を踏まえ、新たな痕跡を利用しながら想像力を働かせるのは、以外と面白いものがあります。人類が生存していなかった時期の自然環境を想像するというのは、ワクワクする楽しさを味わえます。考古学とは比較にならない壮大なスケールの視点での想像力が発揮できます。

理科学習、環境学習を含めた総合的な学習として、教頭先生の指導で5・6年生が河川学習を行いました。御船町恐竜博物館にも立ち寄りました。子ども達には学問的な関心は高くないかもしれませんが、野外での現地学習の記憶が少しでも残ればいいかなと思います。

応援あったから・・・

2月22日付け熊日新聞夕刊に「応援あったから頑張れた」の記事が記載されていました。東日本大震災から5年が経過しようとしています、今の状況を教えてください。宮城県気仙沼市に住む、当時小学校4年生だった松本魁翔（かいと）くんは4月から高校生になります。小学校4年生の子どもがこれまで頑張ってきたのは、家族等の支えがあったからこそというのは勿論のことですが、「応援してるね」「負けないで」等の全国から届いた励ましの手紙やはがきがあったからだそうです。

ただ、現在も仮設住宅で不自由な生活を送り、多くの同級生等を亡くし悲しみが癒えない精神状態の中で、ひたむきに頑張る姿勢には頭が下がるばかりです。

新聞には家屋等の瓦礫が山積する中を水運びする当時の写真と高校入学を間近にした現在の写真があります。この写真からは本人の頑張りと逞しく成長した姿が表現されていますが、心の奥底にある震災の恐怖心や苦悩、悲しさ、将来への不安といったものも感じます。これは私だけでしょうか。（写真を見ないと何とも言えないですね。）

勿論、私も「頑張っているね、応援しているよ」「これからも前向きに努力して頑張ってね」・・・とエールを送りたいと思っています。ただ、直接災害に遭っていない、遠い所にいる人間として、慰め的で無責任な言葉はかけられません。気持ちだけでは全てがうまくいくわけではありません。

せっかくこれから明るく生きていこうという希望ある記事なのに、暗い思いにさせてしまうようで申し訳なく思います。当たり前前の生活を送れている私たちに出来ることは何かを考えて欲しいのです。

私たちは本当に恵まれています。やろうと思えば何でもできるのです。魁翔くんのためにも頑張らなくてはいいのではないのでしょうか・・・。

3年親子料理で生姜焼きを作りました。地元特産の生姜を使い、最高に美味しい出来上がりでした。



目標に近づいたか？

平成27年度も残り34日となりました。今の学年になって、気持ちも新鮮な時に設定した目標の達成はどんな段階でしょうか？「えっ！自分の目標を覚えていない！？」こんな人もいますか？と思います。大変失礼ですが、このような人は、今後も同じことの繰り返しで人生を過ごしていつか終わってしまうのではないかと不安になります。そして、残念に思います。自分の努力度を自分で把握できていないと、達成困難な目標を設定してしまいがちです。

小学生も3、4年生になれば自分の努力度が分かります。但し、それまでにしっかりと努力する態度と実践力が身に付いていないといけません。皆さんは如何でしょうか。毎年度なかなか目標達成に近づけていない人は、まずは自分の努力できる力（努力度）を知る努力をして欲しいものです。